



【住 所】熊本市本荘5-16-10

【病院長】八木 泰志 先生

【病床数】一般病床 227床(うち、緩和ケア 10床、ICU 4床)

【スタッフ】消化器内視鏡医6名、呼吸器内視鏡医3名、内視鏡検査技師5名

【内視鏡検査総数】(平成18年度):6,348件

【内視鏡治療総数】(平成18年度):1,140件(うち、上部消化管内視鏡治療228件、下部消化管内視鏡治療435件、胆膵系内視鏡治療427件、気管支内視鏡50件)

【緊急治療内視鏡件数】(平成18年度):118件

【内視鏡関連機器】スコープ本数 24本(うち、上部消化管用10本、下部消化管用7本、ERCP用2本、気管支内視鏡5本)

## 高い専門性を有する少数精鋭のメンバーで 地域が求める最新の内視鏡診療を実践

### 医師会会員と患者様の信頼に応えるため チーム医療で最先端の内視鏡診療を提供

熊本地域医療センターの内視鏡室は、消化器内視鏡医6名と内視鏡技師5名のスタッフで構成され、通常の紹介患者に対する内視鏡診断・治療に加え、吐血・下血の内視鏡止血や急性胆道炎治療などの緊急内視鏡手術に対し365日24時間オンコール体制で対応しています。また、200床規模の病院としては圧倒的に治療内視鏡の割合が高く、特に治療ERCPは年間で400件以上実施していることが大きな特長です。これは、同センターが全病床を熊本市医師会会員に開放する開放型病院として設立された背景から地域連携が強固であり、医師会会員の先生方との厚い信頼関係を基盤とした紹介患者が多いことに起因します。前内視鏡室長の明石隆吉先生の時代から、近隣の“かかりつけ医”から高度な内視鏡診断や治療を依頼されることが多く、内視鏡室ではその要望に応えるため最新設備や治療法の導入を積極的に進めています。特に、高解像度ハイビジョン内視鏡システムやNBI、大腸拡大内視鏡などの高度な診断機器を導入し、同センターが力を入れている癌疾患の早期発見と確実な診断に貢献しています。また、27年前にいち早くESTを導入した実績からも明らかのように、患者様にとって有益な治療法であれば臆することなく取り組んでいくということが伝統として受け継がれてきています。

明石先生は現在、病院に併設されている熊本市医師会ヘルスケアセンターの所長を務めておられますが、こちらで実施した健診でさらに詳しい検査が必要な患者様は同日中に内視鏡室でEUS等の検査を受診できるなど、両施設が連携してより患者利益の高い医療サービスを提供しています。



熊本市医師会ヘルスケアセンター

## ● 全国に先駆けて独立の内視鏡検査技師部を 設立し専門性の高いスタッフを固定

限られたスタッフで多くの内視鏡検査や治療を実施している内視鏡室では、スタッフの専門性が高く徹底したチーム医療で日々の診療に臨んでいます。消化器内視鏡部長の清住雄昭先生は、「当院では、昭和58年に全国に先駆けて看護部から独立した内視鏡検査技師部が設立され、スタッフは配置転換をせずに内視鏡技師としての経験と専門性を高められるようになっていきます。熟練した内視鏡技師は日々高度化する内視鏡診療・治療に欠かせない存在であり、それによって医師は術野に神経を集中し、難しい症例であっても安全で確実な手技を行うことができます」と、医師と内視鏡技師それぞれが役割に応じた貢献をすることでチーム医療の実績を上げている現状をご説明いただきました。内視鏡検査技師主任の淡路誠一さんも、「症例によっては使用頻度の低い処置具を用いる場合もありますが、内視鏡技師は経験から適切な使用法を熟知し、時には先生方にアドバイスができることもあります。このようなことが可能になるのも、配置転換がなく技師としてのキャリアを積める環境のおかげだと思います」と、独立部門制度のメリットをお話になりました。医師を含めたスタッフ全員で月に一度合同ミーティングを実施し、他職種の業務への理解を深めていることもチームワーク強化の一因となっているようです。



消化器内視鏡 部長  
清住雄昭先生



消化器内科  
上田城久朗先生



内視鏡検査技師 主任  
淡路誠一さん

## ● 病院機能評価Ver.5認定に向けて 環境整備と感染対策をさらに強化

同センターは平成15年に「病院機能評価Ver.4」を取得し、現在では平成20年に予定されているVer.5の認定に向けて環境整備と感染対策の強化を進めています。内視鏡室では、スタンダードプリコーションに則ったフタール製剤を用いた症例間消毒を実施していますが、さらに直接粘膜や血管系に接触する生検鉗子、高周波スネア、ガイドワイヤー等の内視鏡処置具の完全ディスプレイ化を実現しています。また現在は医療従事者が媒体となる感染経路遮断のため、感染防護対策として症例前後の手洗いの徹底や検査毎のベッド等の清拭、検査中の手袋、マスク、ゴーグル等の防護具の着用を実施しています。特に防護具については、不潔領域から清潔領域に触れる場合は必ず新しいものと交換するよう、スタッフ全員に周知徹底しているそうです。

数の上では決して抱負とは言えない陣容でありながらも、より高い目標の実現に向けて日々努力するモチベーションの高さは、常に笑顔が絶えない明るい職場環境とチームワークの良さが源となっていることが伺えました。



内視鏡室のみなさん